



がつ ど い り ん ぼ か ん
9月 土居隣保館カレンダー

にち 日	げつ 月	か 火	すい 水	もく 木	きん 金	ど 土
					1	2
3	4	5	6	7 入0-170ビ ック 10:00~	8	9 もっこうきょうしつ 木工教室 10:00~
10	11 クラフトバン きょうしつ ド教室 10:00~	12	13	14 入0-170ビ ック 10:00~	15	16
17	18	19 からてきょうしつ 空手教室 20:00~	20	21 入0-170ビ ック 10:00~	22	23
24	25 悠遊クラブ 10:00~	26	27	28 入0-170ビ ック 10:00~	29	30

りんぼかん じんけんそうだん しょくぎょうそうだん おこな
隣保館では、人権相談や職業相談を行っています

なや
悩んでいることはありませんか？
りんぼかん じんけん かか なや そうだん まどぐち しょくば しょくば
隣保館は、いつでも人権に関わる悩みを相談できる窓口です。「職場でのハラスメント」、「職場
がっこう い なん そうだん じゅんかいそうだん しょくぎょうそうだん
や学校に行けない」など何でも相談してください。また、ハローワークの巡回相談（職業相談）
おこな じゅんかいそうだん でんわ よやくせい こんねんど
を行っています。巡回相談は、電話による予約制となっています。今年度より、ハローワーク
しょくいんげん ていきかいさい りょうかい
職員減により定期開催はなくなりましたので、ご了解ください。

ど い り ん ぼ か ん だ よ
土居隣保館便り

れいわ ねん
令和5年
9 がっこう
月号

はっこう ど い り ん ぼ か ん しこくちゅうおうしどいちょうふじわら
発行：土居隣保館 〒799-0703 四国中央市土居町藤原5-400-3 TEL/FAX 28-6356

シリーズ この人に聞く 1

しこくちゅうおうしじんけんたいさくきょうぎ かいがいちょう やまだまさはる
四国中央市人権対策協議会会長 山田政春さん



さくねん りんぼかん さべつ たた ねん ひと しあわ ねが
昨年、隣保館だよりで、差別と闘い多くの人の幸せを願って

かつどう いわさきいさるう えぐち あんどうせいがく
活動した岩崎伊三郎さん、江口いとさん、安藤正楽さんの

しょうかい
紹介をしました。そういう先人の思いを受けて、差別解消

のため活動している人が私たちの周りにたくさんいます。

さべつかいしょう めざ かつどう つづ ひと はなし き わたし ちから はんさべつ ながま
差別解消を目指して活動し続ける人の話を聞くことで、私たちは力をもらい、反差別の仲間と

してつながっていきこうという思いが強くなります。

だい かいめ やまだまさはる はなし うかが
第1回目は、山田政春さんにお話を伺いました。

じんけんたいさくきょうぎ かい かいちょう た おも かつどう
1 人権対策協議会の会長になられてどれくらい経ちますか。また、どういう思いで活動されていますか。

かいちょう ねん た おも かいちょう とき わか ひと そだ わか ひと はんさべつ なかま
会長になって、6年ほど経ったと思います。会長になった時から、若い人を育てたい、若い人と反差別の仲間とし

てつながりたいという思いで活動しています。その思いは、旧土居町で人権対策協議会の役員になった時から変わり

ません。まだその思いは達成できてないかも知れませんが、若い人にいろいろなことをバトンタッチした時に、活動の

せい か わ おも
成果が分かってと思っています。

いま かつどう なか うれ し くや
2 今まで活動されてきた中で、嬉しかったことや悔しかったことはありますか。

じぶん かつどう けっか ねんご あらわ おも じぶん おも じつげん
自分が活動していることの結果は、1・2年後に現れると思います。自分の思いが実現していれば、きっとその時、

喜びをかみしめるとおもいます。でも、もしかしたら、それが自分の反省になるかも知れません。

様々な活動をしていく中で、多くの仲間ができました。悔し涙を流しながら、差別解消のために一緒に歩もうとして

くれる人と出会ったときは、とても嬉しいです。しかし、教師や行政職員の中には、現職の時は一生懸命同和教育を

していても退職したら同和教育から離れてしまう人がいます。そういう人間関係はとてもさみしいです。反差別の思い

でつながっていると信じた人が同和問題から離れていくのはとても悔しいです。

3 今、子ども達に話をされていますが、その中でどんなことを感じましたか。また、子ども達の発言で心に残っていることはありますか。

今の子どもは、少し前の子どもと少し違うように思います。今の子ども達はデジタル化された中で育っているのでス

マホなどの身近なものには反応します。しかし、部落差別の話をしたとき、あまり関心を示さない子どもが多いように思い

ます。ただ、最初の10分、20分はあまり反応がなくても、話しているうちに子ども達の顔が変わっていきます。だから、

いつも丁寧に深く話すようにしています。

聞き取り学習を終えた後、返ってきた子ども達の感想の中で今も心に残っている言葉がたくさんあります。「私は

同和問題を勉強して得をしたと思います。今まで以上に人を大切にできるし、優しくなれたと思います。」「僕は、卒業

した先輩のような6年生になりたいと思います。先輩達は、行動することの大切さを教えてくださいました。」「自分のおば

あちゃんに部落差別は間違っていることを教えます。大切なおばあちゃんが醜い心のままでは悲しいから。」など、い

ろいろな感想を聞かせてくれました。こういう子ども達の言葉で私は力をもらい、がんばれます。

4 子ども食堂を立ち上げられ、現在も続いています。立ち上げたときの思いと続けてきて良かったなと思うことを教えてください。

貧困児童や孤食の児童は、7人に1人というデータを知り愕然としました。全国規模の活動はできないけれど、今

住んでいるところで自分にできることをしたいと思い、子ども食堂を始めました。今年で7年目になりますが、コロナ禍

で子ども食堂の形態が変わってきました。子どもに多くきてほしいと思い子ども食堂を始めましたが大人も来られるよう

にしました。初めは大人の方が多く来ていました。しかし、コロナの影響で子どもの方が多く来るようになりました。何か

があると弱者にしわ寄せがいきます。今、しんどい思いをしている子どもが多いのだと感じます。こども食堂ではいろい

ろな交流があります。人と関わることで元気になる子どももいます。今のこども食堂は、当初の目的に近い形で運営

しています。続けてきて良かったと思います。

5 同和問題を解決するためには、私達ひとりひとりの差別解消への思いと行動が大切だと思います。最後にみんなに伝えたいことをお話してください。

単純に考えてください。「差別は今もあるんですか。」というところに立つと真実が見えないと思います。7年前に

「部落差別解消推進法」が施行されました。法律を作らないといけないということは、差別が存在していることを国が

認めているということです。

「自分は差別を見過ごしていくか」差別は許さないというところに立って、「差別をなくす主体者になるか」2つに1つ

だと思えます。

忙しい時間の合間を縫ってインタビューに答えてくださいました。差別解消のため、いつも前を向いて走り続けている山田会長と共に、私も今自分のいる場所で、自分にできることを積み上げていきます。

宇和島市の子ども会との学習会（令和5年8月8日）



令和5年8月8日隣保館において、宇和島市の子ども会20名を招いて同和問題学習会を開催しました。7月末

に急遽開催決定しましたが、山田政春さん（人権対策協議会会長）、橋本裕式さん（人権教育協議会会長）が

快く参加を引き受けてくださいました。